



デバイス プールの設定

デバイス プールでは、複数のデバイスに共通の特性をまとめて指定します。デバイス プール構造では、ユーザ情報とロケーション情報の分離がサポートされています。現在、デバイス プールには、デバイスおよびロケーションの関連情報のみが格納されています。Common Profile ウィンドウに、すべてのユーザ指向情報が記録されます。各デバイスが、デバイス プールと、ユーザ指向情報の共通プロファイルに関連付けられていることを確認してください。

デバイス プールを設定するには、次のトピックを参照してください。

- [デバイス プールの検索 \(P.8-2\)](#)
- [デバイス プールの追加 \(P.8-5\)](#)
- [デバイス プールの更新 \(P.8-7\)](#)
- [デバイス プールの削除 \(P.8-8\)](#)
- [デバイス プールの設定値 \(P.8-9\)](#)

デバイス プール、およびデバイス プールを通じて割り当てられるデバイス設定値の詳細については、『Cisco CallManager システム ガイド』の「システム レベルのコンフィギュレーション設定」を参照してください。

デバイス モビリティ機能の詳細については、『Cisco CallManager 機能およびサービス ガイド』の「Cisco CallManager デバイス モビリティ」を参照してください。

共通プロファイル パラメータの詳細については、[P.57-1](#) の「共通プロファイルの設定」を参照してください。

デバイス プールの検索

ネットワーク内にはいくつかのデバイス プールが存在することがあるので、Cisco CallManager Administration では、固有の条件を指定して、特定のデバイス プールを見つけることができます。デバイス プールを見つける手順は、次のとおりです。



(注) Cisco CallManager Administration では、ブラウザセッションでの作業中は、デバイス プールの検索設定が保持されます。別のメニュー項目に移動してからこのメニュー項目に戻ってくる場合でも、検索に変更を加えたり、ブラウザを閉じたりしない限り、デバイス プールの検索設定は保持されます。

手順

ステップ 1 System > Device Pool の順に選択します。

Find and List Device Pools ウィンドウが表示されます。2 つのドロップダウン リスト ボックスを使用して、デバイス プールを検索します。

ステップ 2 最初の Find Device Pools where ドロップダウン リスト ボックスから、次の条件のいずれかを選択します。

- Device Pool Name
- Cisco CallManager Group
- Region



(注) このドロップダウン リスト ボックスで選択する条件によって、検索時に生成されるデバイス プール リストのソート方法が決まります。たとえば、Region を選択すると、Region 列が結果リストの左側の列に表示されます。

2番目の Find Device Pools where ドロップダウン リスト ボックスから、次の条件のいずれかを選択します。

- begins with (前方一致)
- contains (中間一致)
- ends with (後方一致)
- is exactly (完全一致)
- is not empty (非空白)
- is empty (空白)

ステップ 3 必要に応じて適切な検索テキストを指定し、**Find** をクリックします。また、ページごとに表示する項目の数も指定できます。



ヒント データベースに登録されているデバイス プールをすべて検索するには、検索テキストを入力せずに **Find** をクリックします。

検出されたデバイス プールのリストが、次の項目別に表示されます。

- Device Pool icon
- Device Pool Name
- CallManager Group
- Region
- Date/Time Group



(注) 該当するデバイス プールの横にあるチェックボックスをオンにして **Delete Selected** をクリックすると、Find and List Device Pools ウィンドウから複数のデバイス プールを削除できます。Matching Records タイトルバーにあるチェックボックスをオンにして **Delete Selected** をクリックすると、ウィンドウ内のすべてのデバイス プールを削除できます。

■ デバイス プールの検索

ステップ 4 レコードのリストから、検索条件と一致する Device Pool icon、Device Pool name、CallManager Group、Region、または Date/Time Group をクリックします。

選択したデバイス プールがウィンドウに表示されます。

関連項目

- [デバイス プールの追加 \(P.8-5\)](#)
- [デバイス プールの更新 \(P.8-7\)](#)
- [デバイス プールの削除 \(P.8-8\)](#)
- [デバイス プールの設定値 \(P.8-9\)](#)

デバイス プールの追加

この項では、新しいデバイス プールを Cisco CallManager データベースに追加する方法を説明します。新しいデバイス プールをデータベースに追加した後、そのデバイス プールを使用して、Cisco IP Phone、ゲートウェイ、Conference Bridge、トランスコーダ、メディア ターミネーション ポイント、ボイスメール ポート、CTI ルート ポイントなどのデバイスを設定できます。

始める前に

デバイス プールに対して次の項目を選択する場合は、デバイス プールを設定するとき、事前に、その項目を設定しておく必要があります。

- Cisco CallManager Group (必須)。P.4-5 の「Cisco CallManager グループの追加」を参照してください。
- 日付 / 時間グループ (必須)。P.5-5 の「日付 / 時間グループの追加」を参照してください。
- リージョン (必須)。P.7-4 の「リージョンの追加」を参照してください。
- SRST リファレンス (オプション)。P.13-4 の「SRST リファレンスの追加」を参照してください。
- メディア リソース グループ リスト (オプション)。P.39-5 の「メディア リソース グループ リストの追加」を参照してください。
- 自動登録用のコーリング サーチ スペース (オプション)。P.20-4 の「コーリング サーチ スペースの追加」を参照してください。
- デバイス モビリティ グループ (オプション)。P.48-3 の「デバイス モビリティ グループの追加」を参照してください。
- デバイス モビリティ コーリング サーチ スペース。P.20-4 の「コーリング サーチ スペースの追加」を参照してください。
- 物理ロケーション (オプション)。P.12-3 の「物理ロケーションの追加」を参照してください。
- ロケーション。P.10-5 の「ロケーションの追加」を参照してください。
- AAR グループ。P.14-5 の「AAR グループの追加」を参照してください。
- AAR コーリング サーチ スペース。P.20-4 の「コーリング サーチ スペースの追加」を参照してください。

■ デバイス プールの追加

手順

ステップ 1 System > Device Pool の順に選択します。

ステップ 2 デバイス プールを追加するには、次のどちらかの方法を使用します。

- 追加するデバイス プールの設定値とほぼ同じ設定値を持つデバイス プールがすでに存在する場合は、その既存のデバイス プールを選択してその設定値を表示し、**Copy** をクリックする。その後、必要に応じて設定値を変更する。
- 既存のデバイス プールをコピーせずにデバイス プールを追加する場合は、[ステップ 3](#) に進む。

ステップ 3 ウィンドウの右上にある **Add a New Device Pool** リンクをクリックします。

Device Pool Configuration ウィンドウが表示されます。

ステップ 4 該当するフィールドを編集または入力します (P.8-9 の「[表 8-1 デバイス プールの設定値](#)」を参照)。

ステップ 5 **Insert** をクリックして、デバイス プール情報をデータベースに保存します。

関連項目

- [デバイス プールの検索 \(P.8-2\)](#)
- [デバイス プールの更新 \(P.8-7\)](#)
- [デバイス プールの削除 \(P.8-8\)](#)
- [デバイス プールの設定値 \(P.8-9\)](#)

デバイス プールの更新

既存のデバイス プールの設定を変更する手順は、次のとおりです。

手順

- ステップ 1** P.8-2 の「[デバイス プールの検索](#)」の手順を使用して、デバイス プールを検索します。
- ステップ 2** 一致するレコードのリストから、更新するデバイス プールを選択します。
- ステップ 3** 該当する設定値を更新します（表 8-1 を参照）。
- ステップ 4** **Update** をクリックして、データベース内の変更内容を保存します。
- ステップ 5** デバイスをリセットして、変更内容を適用します。選択されたデバイス プール内のデバイスをすべてリセットするには、**Reset Devices** をクリックします。



ヒント

Restart Devices ボタンは、デバイスをリセットするのに便利です。このボタンを使用すると、選択されたデバイス プール内のデバイスがすべてリセットされます。



注意

デバイスをリセットすると、そのデバイスのコールが欠落することがあります。

関連項目

- [デバイス プールの検索 \(P.8-2\)](#)
- [デバイス プールの追加 \(P.8-5\)](#)
- [デバイス プールの削除 \(P.8-8\)](#)
- [デバイス プールの設定値 \(P.8-9\)](#)

デバイス プールの削除

Cisco CallManager データベースからデバイス プールを削除する手順は、次のとおりです。

始める前に

デバイスが割り当てられているデバイス プール、Device Defaults 設定に使用されるデバイス プール、またはデータベース内の唯一のデバイス プールは、削除できません。使用中のデバイス プールを削除しようとする、メッセージが表示されます。現在使用中のデバイス プールを削除する場合は、事前に、次のどちらかまたは両方の作業を実行しておく必要があります。

- デバイスを更新して別のデバイス プールに割り当てる。P.62-12 の「[電話機の更新](#)」を参照してください。
- 削除するデバイス プールに割り当てられているデバイスを削除する。P.62-13 の「[電話機の削除](#)」を参照してください。

手順

-
- ステップ 1** P.8-2 の「[デバイス プールの検索](#)」の手順を使用して、デバイス プールを検索します。
 - ステップ 2** 一致するレコードのリストから、削除するデバイス プールを選択します。
 - ステップ 3** **Delete** をクリックします。
 - ステップ 4** 削除操作を確認するように求められたら、**OK** をクリックして削除します。削除操作を取り消すには、**Cancel** をクリックします。
-

関連項目

- [デバイス プールの検索 \(P.8-2\)](#)
- [デバイス プールの追加 \(P.8-5\)](#)
- [デバイス プールの更新 \(P.8-7\)](#)
- [デバイス プールの設定値 \(P.8-9\)](#)

デバイス プールの設定値

表 8-1 では、デバイス プールの設定値を一覧表示し、説明します。

表 8-1 デバイス プールの設定値

フィールド名	説明
デバイス プールの設定値	
Device Pool Name	作成する新規デバイス プールの名前を入力します。
Cisco CallManager Group	このデバイス プール内のデバイスに割り当てる Cisco CallManager Group を選択します。1 つの Cisco CallManager Group では、最高 3 つの Cisco CallManager の優先順位をリストで指定しています。リスト内の最初の Cisco CallManager が、そのグループのプライマリ Cisco CallManager となり、残りは、冗長性を確保するためのバックアップ Cisco CallManager になります。
Date/Time Group	このデバイス プール内のデバイスに割り当てる日付 / 時間グループを選択します。日付 / 時間グループは、時間帯、および日付と時刻の表示形式を指定します。
Region	このデバイス プール内のデバイスに割り当てる Cisco CallManager リージョンを選択します。Cisco CallManager リージョンの設定値は、リージョン内および他のリージョン間でコールに使用できる音声コーデックを指定します。
SRST Refernce	<p>ドロップダウン リスト ボックスから、このデバイス プール内のデバイスに割り当てる Survivable Remote Site Telephony (SRST) リファレンスを選択します。次のいずれかのオプションを選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • Disable : このオプションを選択すると、このデバイス プール内のデバイスは SRST リファレンス ゲートウェイを使用できなくなります。 • Use Default Gateway : このオプションを選択すると、このデバイス プール内のデバイスはデフォルトの SRST ゲートウェイを使用します。 • Existing SRST references : ドロップダウン リストから SRST リファレンスを選択すると、このデバイス プール内のデバイスはこの SRST リファレンス ゲートウェイを使用します。

■ デバイス プールの設定値

表 8-1 デバイス プールの設定値 (続き)




フィールド名	説明
Media Resource Group List	<p>ドロップダウン リスト ボックスから、メディア リソース グループ リストを選択します。メディア リソース グループ リストは、優先順位順に並べられたメディア リソース グループのリストを指定します。アプリケーションは、メディア リソース グループ リストに定義されている優先順位にしたがって、使用可能なメディア リソース グループから、必要なメディア リソース (たとえば、music on hold サーバ、トランスコーダ、Conference Bridge) を選択します。</p>
Network Locale	<p>ドロップダウン リスト ボックスから、電話機とゲートウェイに関連したロケールを選択します。そのネットワーク ロケールは、特定地域にあるデバイス プールの電話機とゲートウェイが使用するトーンおよび断続周期の定義を含んでいます。このデバイス プールを使用する電話機とゲートウェイのすべてがサポートするネットワーク ロケールを選択してください。</p> <p> (注) ユーザがネットワーク ロケールを選択しない場合は、Cisco CallManager clusterwide パラメータでデフォルト ネットワーク ロケールとして指定されたロケールが適用されます。</p> <p> (注) 関連するデバイスによってサポートされているインストール済みのネットワーク ロケールのみを選択してください。このリストにはこの設定に使用できるネットワーク ロケールがすべて示されていますが、そのすべてがインストールされているわけではありません。デバイスは、ファームウェアにおいてサポートしていないネットワーク ロケールと関連付けられると、起動に失敗します。</p>
Device Mobility Group	<p>デバイス モビリティ グループは、ネットワーク内の最高レベルの地域エンティティで、デバイス モビリティ機能をサポートするために使用します。</p>

表 8-1 デバイス プールの設定値 (続き)

フィールド名	説明
Location	ロケーションは、コール アドミッション制御を中央集中型コール処理システムに実装する際に使用します。コール アドミッション制御では、ロケーション間のリンクを経由する際にオーディオ コールとビデオ コールで使用できる帯域幅を制限することにより、オーディオ品質とビデオの可用性を調整できます。
Physical Location	このデバイス プールの物理ロケーションを選択します。デバイス モビリティ機能の物理ロケーションを使用して、特定の地域ロケーションに関連したパラメータが識別されます。
Connection Monitor Duration	<p>この設定値は、IP Phone が SRST から登録解除され Cisco CallManager に再登録される前に、Cisco CallManager への接続を監視する時間を定義します。</p> <p>デフォルト値は 120 秒で、Connection Monitor Duration エンタープライズパラメータに属します。</p> <p>コネクション モニタを使用不可にする (値を 0 に変更する) 必要がある場合、またはコネクション モニタの時間を延長する場合は、この設定値を変更します。</p> <p> (注) Connection Monitor Duration の値を変更した場合、その値は更新されたデバイス プールだけに適用されます。それ以外のすべてのデバイスは、固有の Connection Monitor Duration フィールドの値またはエンタープライズパラメータで設定された値を使用します。</p> <p>詳細については、『Cisco CallManager システム ガイド』の「SRST リファレンス」を参照してください。</p>
Device Mobility Calling Search Space	デバイスがローミング中で、デバイス モビリティ グループが同じ場合に、デバイス コーリング サーチ スペースとして使用される適切なコーリング サーチ スペースを選択します。

■ デバイス プールの設定値

表 8-1 デバイス プールの設定値 (続き)

フィールド名	説明
AAR Calling Search Space	自動代替ルーティング (AAR) の実行時にデバイスが使用するコーリング サーチ スペースを選択します。コーリング サーチ スペースは、帯域幅不足によってコールがブロックされないように、収集された (発信) 番号をルーティングする方法を決定するために検索されるパーティションの集合を指定します。
AAR Group	このデバイスの自動代替ルーティング (AAR) グループを選択します。AAR グループは、帯域幅不足のためにコールがブロックされないように、コールをルーティングするためのプレフィックス番号を提供します。AAR グループ設定を None にすると、ブロックされたコールの再ルーティングは行われません。

関連項目

- [デバイス プールの検索 \(P.8-2\)](#)
- [デバイス プールの追加 \(P.8-5\)](#)
- [デバイス プールの更新 \(P.8-7\)](#)
- [デバイス プールの削除 \(P.8-8\)](#)